

研究会・部会・ 委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
食品安全研究会					
食品微生物研究部会	<ul style="list-style-type: none"> ・食品産業会が抱える食品微生物関連の共通課題を、部会員が協同で(企業の枠を超えて)研究し解決を目指す。 ・食品関連企業の微生物担当者が業務上の悩みや課題を相談・共有し相互解決できる場として機能する。 ・当部会の研究成果を含む食品微生物に関する安全性等の情報について、広く周知活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上の部会および勉強会の開催 ・分科会による研究活動の推進と発信 ・部会員同士の情報交換を加速する場の設計と運営 ・新規研究プロジェクトの立案および他機関との積極的な連携の実施 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」No. 162 に掲載するフラッシュ・レポート『芽胞の耐熱性測定における試験室間検証試験～<i>Bacillus cereus</i> 芽胞の耐熱性測定～』の執筆 ・4/14の部会および勉強会の開催に向けた準備 ・NITEとの包括連携協定の契約延長 <p>【分科会活動】</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲料の危害微生物に関する分科会メンバー間の情報交換会を2/3に開催。次回は5月中に開催予定。 <p>(2) チルド勉強会</p> <p>a. ボツリヌス菌接種試験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追加試験の進捗についてメンバーおよび日本缶詰びん詰レトルト食品協会とWEB会議を開催し、結果の確認および追加で実施する試験を決定(3/18) ・引き続き定期的に情報交換会を開催予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会および勉強会の開催(4/14) 	独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)

			b. 耐熱性試験法検証活動 ・活動なし (3) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会 ・進捗なし		
食品リスク研究部会	食品の安全性評価の考え方を学び、その普及に努める。	食品リスク研究に関する勉強会を3回以上開催し、情報発信する。	・2025年勉強会開催方針について議論し、7月から12月までの期間に3回、開催することとなった。 ・テーマは部会内でのアンケート結果を基に決定する。 ・勉強会企画・準備は部会メンバー全員で議論・分担して行う。	・勉強会全体のフラッシュ・レポート（「イルシー」162号） ・第2回勉強会の内容を手島玲子先生による書き下ろし原稿として投稿（「イルシー」162号） ・勉強会テーマの決定を早急に行い、開催に向けた部会内での役割分担を行う。	
香料研究部会	食品香料の性質と安全性等に関し偏向の無い科学的な調査研究を行う。食品香料に関する正しい科学的共通理解を産・官・学に普及させる。	—	—	—	—
食品領域の動物実験代替推進プロジェクト（AATプロジェクト）					
全体進捗	<活動目的> 1) 動物に依存しない、毒性発現機序に基づいた、ヒトへの予測性のより高い評価アプローチを	・研究WGテーマ推進による評価技術基盤並びに評価戦略構築とケースレポートの作成。	・プロジェクトの活動について、今後の方向性、活動戦略、スケジュール等に関する議論を目的に、コアメンバー会議を開催（2025年1月～3月）。 ・外部発表：日本動物実験代替法学会	・プロジェクト全体会議を4月11日(金)に開催予定	・国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）、一般財団法人化学物質評価研究機構（CERI）、その他アカ

	<p>確立し、食品の安全性および機能性評価の精緻化・効率化を進展させること。</p> <p>2) 動物福祉の世界的潮流の中で食品領域の取り組みを加速させること。</p>	<p>・情報収集・発信 (国際ワークショップ内容のレポートによる発信、シンポジウムの開催)。</p>	<p>第38回学術大会(11/1~3、横浜)において食品領域にフォーカスしたシンポジウムをILSI Japanがオーガナイザーとなり企画・実施することを決定。プログラム検討中。</p>		<p>デミア等の専門家</p> <p>・関連学会(日本動物実験代替法学会等)</p> <p>・ヨーロッパ、アジア等のILSI支部</p>
体内暴露予測ワーキンググループ(WG)	<p>食品成分の体内曝露を、動物を用いずに予測する手法の開発推進と現場実装</p>	<p>① 昭和薬科大学山崎研にて構築された in silico 動態予測モデルの実装</p> <p>② 新規腸管吸収予測ツールの適用性把握</p> <p>③ ケースレポート対象化合物の体内曝露予測</p>	<p>① in silico 体内動態予測モデルのガイダンス作成に向け、ケミカルスペースの簡易実行ファイル構築が完了した。また、AATメンバーへの共有方法の検討を進めた。</p> <p>② in silico 体内動態予測モデルに関する論文の内容について議論し、骨子や作図の方針を決めた。また、作図対応を進めた。</p> <p>③ 進捗なし</p>	<p>① ガイダンスおよび in silico 体内動態予測ツールの共有を実施</p> <p>② in silico 体内動態予測モデルに関する論文の作図対応</p> <p>③ ケースレポート WG の検討内容に応じて適時曝露予測を実施</p>	
データベースWG	<p>食品成分の既存毒性情報(文献等)を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p>	<p>有害性評価支援システム統合プラットフォーム(HESS)を用いた食品成分毒性試験データベース及び使用ガイダンスを含む毒性予測手法のAAT参画メンバ</p>	<p>進捗なし</p>		

		への公開			
ケースレポート WG	NAMs (New Approach Methodologies) を用いた食品成分の安全性評価戦略を具体化させ、体内曝露予測 WG とデータベース WG の活動と協力し、in vitro assay 系を加えたリスク評価戦略を作成し、ケースレポートとして発信する。	第 1 弾のケーススタディは「肝障害」をテーマとする。評価スキームの検証は、in vitro では Bayesian BMD 解析にて算出した BMDL を、in vivo では肝障害のみられた用量における曝露濃度予測値をそれぞれ PoD とし、両者を比較することで妥当性を検証する。	食品領域にフォーカスしたシンポジウムを日本動物実験代替法学会第 38 回学術大会で実施することが決定した。そこでの発表にむけて、昨年度の代替法学会での発表にて課題となった点を検討するため、既存データベース (NMCD および LiverTox) の調査を実施し、ヒトで有害事象の報告があり、かつ、ラット反復投与毒性試験で肝障害の報告がある緑茶抽出物の主要成分であるエピガロカテキンガレート (EGCG) を肝障害第 2 弾の評価対象成分とした。EGCG での評価スキームの検証を実施するため、ヒトおよびラットにおける EGCG 摂取量と肝障害の発現頻度、ならびに in vitro 細胞毒性試験に関する文献調査を実施中。	評価に必要な情報の収集と検証作業を進め、シンポジウムでの発表に向けてタイトルおよび要旨を作成すると共に、外部専門家と連携しながら発表資料の作成を進める。 また、第 37 回日本動物実験代替法学会での発表内容をケースレポートとしてまとめ・発信すべく、準備を進める。	
企画運営 WG	動物実験代替法における各国の技術・規制動向に関する情報を発信することにより、食品業界における代替法の開発や取り組みの推進を促す。	評価技術に関する情報を収集しプロジェクト内へ共有すると共に、プロジェクトの活動内容を学会やワークショップ等を通じて発信する。	食品の機能性評価における動物実験代替法の活用について、プロジェクトメンバーを対象とし、専門家の先生による講演会を企画している。 2025 年 1 月 22 日 (水) に食品安全委員会との取り組みとして頭金正博委員による勉強会を開催した。「食品安全委員会における NAMs への取	<ul style="list-style-type: none"> 講演会シリーズ第 5 回は京都大学の中台先生にご講演いただくことが決定し、開催に向けた準備を進めている。 代替法学会におけるシンポジウムの運営フォロー 	

			<p>組」と題した講演には現地参加及び Web 参加を合わせた 30 名を超える聴講者があり、大変有意義な勉強会となった。</p> <p>また、講演会シリーズの第 4 回は 2025 年 3 月 10 日 (月) に、東京大学の 高橋裕先生より「ヒトオルガノイドを活用した次世代型食品・栄養科学研究－技術紹介および生理機能・安全性評価の実例と展望－」と題してご講演いただいた。現地参加者、Web 聴講者を合わせておよそ 50 名を超える参加があり、およそ 30 分に及ぶ活発な質疑を通してオルガノイドの理解が深まる貴重な機会となった。</p>		
研究会・部会・委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
バイオテクノロジー研究会	<p>バイオテクノロジーを用いた持続可能な食料の安定供給への貢献を念頭に、バイオテクノロジーの重要性の理解を深め、バイオテクノロジー応用食品・作物・添加物等の安全性・活用に関する調査研究と情報提</p>	<p>1. 植物バイオテクノロジー報告書 (旧 ERA プロジェクト調査報告) (年 4 回)</p> <p>2. バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品・食品添加物等の</p>	<p>・2025/3/17 第 1 回バイオテクノロジー研究会開催。</p> <p>1. 2025 年 8 月に ILSIERA ワークショップを開催する予定であることが報告された。</p> <p>2. 第 17 回 ISBR2025 へ専門家 4 名を派遣し、発表もしくはオブザーバー参加いただくことが報告された。また、当研究会ではデータトランスポートビリティ (DT) に関</p>	<p>・植物バイオテクノロジー報告書 No. 70 号発行準備</p> <p>・精密発酵の事例、各国の規制状況の調査</p> <p>・第 17 回 ISBR2025 専門家派遣プロジェクト準備</p> <p>・データトランスポートビリティ (DT) に関するワークショップ開催準備</p> <p>・2025 年度高度精製品ワークシ</p>	<p>農林水産省</p> <p>消費者庁</p> <p>内閣府食品安全委員会</p> <p>環境省</p> <p>文部科学省</p> <p>経済産業省</p> <p>筑波大学環境系 & つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC)</p> <p>明治大学農学部</p>

	<p>供を産・学・官連携及び国際的ネットワークを通して推進し、科学的根拠に基づく国際的に調和した安全性評価法や活用法の発展に貢献する。</p>	<p>安全性に関するワークショップ</p> <p>3. 第 17 回 ISBR (International Society for Biosafety Research)2025 への安全性評価の専門家の派遣</p> <p>4. 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の論文発表</p>	<p>するパラレルセッションをホストし、派遣先生に日本の現状と今後の展望についてご発表いただくとともに、アルゼンチン、パラグアイなどの専門家からも現状と今後の展望について紹介する予定。</p> <p>3. 2024 年 12 月 16 日開催「精密発酵品に関するワークショップ」の開催報告がなされた。2025 年 5 月発刊の ILSI Japan 機関誌「イルシー」162 号に掲載予定。</p> <p>4. TC/34/SC16 国内対策委員会において精密発酵と細胞性食品は現時点では個別に議論される方向性であることが報告された。</p>	<p>ヨップ開催</p>	<p>国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)作物研究部門</p> <p>横浜国立大学大学院環境情報研究院</p> <p>千葉大学大学院園芸学部</p> <p>東洋大学 生命科学部 生物資源学科</p> <p>東京大学大学院農学生命科学研究科 食の安全研究センター</p>
--	---	---	---	--------------	---

栄養健康研究会

<p>栄養研究部会</p>	<p>国内外における栄養と健康に関わる諸問題についての情報を収集・発信する。また部会員間の交流を推進する。</p>	<p>部会で取り上げたテーマについて、講師を招いた勉強会を企画、開催し、ILSI Japan 会員企業からも参加者を募ることで、課題を共有する。</p> <p>勉強会開催後はイルシー誌に内容を掲載することで、情報を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2025 年度第 1 回定例会議を 2 月 14 日(金) 明治イノベーションセンター(八王子)にて、第 2 回定例会議を 3 月 13 日(木)に森下文化センターにて対面開催し、今後、取り上げるテーマについて意見交換した。 ・3 月 13 日(木)に森下文化センターにおいて、国立健康・栄養研究所の瀧本秀美先生を講師に招き、2025 年度第 1 回勉強会「日本版栄養プロファイリングモデル(加工 	<p>2025 年度第 3 回定例会議を 5 月頃に森下文化センターにて開催予定(日程未定)。</p>	
---------------	---	--	--	---	--

		●上記の部会活動を通して、部会員間およびアカデミアとの人的交流を高め、研究ネットワークの拡充を図る。	食品版・料理版)について」をハイブリッドで開催した。ILSI Japan 会員 34 名の参加があり、活発な質疑応答が行われた。また講演後には講師を囲んで懇親会を開催した。		
GR プロジェクト	食品・食事の血糖応答性の簡易評価法（GR 法）の確立と普及	GR 法の確立・発表論文発表 他施設研究を基礎とした測定系の安定化および簡易化を目標とする	低 GI 食品を含めた代表的な食品の GR 値の測定ならびに測定の安定化を図るための詳細条件の検討を進め、他施設試験に向けて GR 法の動画の制作を検討。また、これまでの内容をまとめて、国際学会で発表をするための準備を進めた。	国際栄養学会議発表準備 論文再投稿準備 GR 法詳細条件の検討 GI 値との比較検討	昭和女子大学 生活機構 研究科生活科学研究専攻 食健康科学部 日本食品分析センター
茶類研究部会・茶情報分科会	茶樹に係わりその成分の世界的な多様さ、飲料その他商品に係わり各種茶成分の機能性、研究・開発・商品化等につき会員相互間の情報交換を深めると共に、外部からも情報を得る。	—	—	—	—
CHP (Center for Health Promotion)					
Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	超高齢化が進む国内において、働きざかりの人々や高齢者の健康維持を支援する、運	・ヘルシーエイジングのためのプログラムの開発・普及 ・介護予防教室の	・内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第 3 期「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」サブ課題 D	・2025 年度墨田区委託事業「すみだテイクテン」春教室 ・「デジタル同居サービス」MVP 検証	鹿児島大学 島根大学 札幌医科大学 石巻専修大学

	動と栄養の複合プログラムの開発と実践	<p>開催(自治体、社会福祉協議会、企業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域リーダーの育成(大学、社会福祉協議会、シルバー人材センター) ・論文等、科学的成果の発信 	<p>「障がい者・高齢者の生きがい向上策」の中の研究テーマ「高齢者と遠隔家族をつなぐデジタル同居サービスの開発」に協力参加機関として参画。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都墨田区委託事業 介護予防教室「すみだテイクテン教室」2024年度報告書の作成提出。2025年度春教室準備(3月区報にて参加者の募集を開始)。 ・津和野町シルバー人材センター主催テイクテンリーダー講習会の開催(1/22, 1/23 津和野町町小川公民館)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文投稿 	<p>東京都健康長寿医療センター研究所 国立健康・栄養研究所 国立健康長寿医療センター 墨田区 横浜市社会福祉協議会 岩国市社会福祉協議会 吉賀町社会福祉協議会 津和野町シルバー人材センター 益田市シルバー人材センター</p>
Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	途上国、新興国における官民連携の栄養改善の取組み「栄養改善事業推進プラットフォーム」(NJPPP)のプロジェクトとして、工場など職場の栄養改善プロジェクトを東南アジア各国で推進。	フィリピン:「フィリピンの栄養強化米プロジェクト2022(調査研究)」	➤ 本年度プロジェクト実施せず		
		ベトナム:「ベトナムにおける野菜の摂取行動に影響を与える要因調査」ビジネスモデル構築を実施。	➤ 本年度プロジェクト実施せず		
		ミャンマー:「完全オンラインによるブロックチェーン技術を応用した職場における栄養教	➤ 本年度プロジェクト実施せず		

		育」 栄養教育推進に 焦点を当てたビ ジネスモデル構 築に向けた展開 を計画。			
		インドネシア：「イ ンドネシアにおけ る健康的な食事の 普及に関する調査 2022」 ビジネスモデル 構築を実施。	➤ 本年度プロジェクト実施せず		
CHP 全体	日本の産・官・学界に蓄積された栄養学、医学、公衆衛生、衛生環境等の分野における科学的知識および技術を、国内および世界的に共通な課題の解決に活用し、SDGs に基づいた社会貢献を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ SUN Business Network Japan (仮称：SBNJ) 事務局機能誘致に向けた活動継続。 ・ SDGs 貢献プラットフォームの形成。 	3 月末日をもって、NJPPP が解散する方向で進行。解散に伴い SBN との関係も解消することで、事務局ワークはなくなる。		
研究会・部会・委員会・分科会	活動ビジョン・ゴール	年度目標	進捗・課題	予定・行動計画	関連団体等
国際協力委員会	アジアの ILSI 各支部間の交流による食品法規動向及びリスク評価等の情報収集・共有化と ILSI Japan 関	9 月 11~12 日に中国で開催予定の Asia Life Sciences Institutes Network (ALSIN) 会議(ア	<進捗> 1) 2/20 国際協力委員会開催 今期の活動計画について、新たに外部から提案された内容も含め検討を行った。検討を継続するこ	<予定> ・課題のうち 2. について、2 月会議での決定事項に従い委員会内の意向調査・事務局への相談を進める。	

	<p>係者への成果報告</p>	<p>ジア地域 ILSI 支部との情報交換会)への参加、情報交換</p>	<p>ととなった。</p> <p>2) ALSIN 会議報告を掲載した「イルシー」誌は無事発刊された。</p> <p><課題></p> <p>1. 活動の継続性</p> <p>2. 新規提案案件への対応方針決定</p> <p>a) 東南アジアプロジェクトを ICC の分科会とする件 (事務局提案)</p> <p>b) ILSI 本体からの情報収集について事務局に協力 (理事会提案)</p> <p>c) アルゴリンクス社との共催セミナー (アルゴリンクス社・事務局提案)</p> <p>3. 前回の ALSIN 会議でコラボテーマとして採用された案件への対応</p> <p>4. 次々回 ALSIN 会議日本開催の可能性への対応</p>	<p>・課題のうち 3. について、事務局経由で提案者側での進捗の確認を行う。</p> <p>・4 月中旬～5 月に会議を開催し、課題について相談する。</p> <p><行動計画></p> <p>・新たに提案された案件への対応を決定する。</p> <p>・2024 年 ALSIN 会議で了承されたコラボの取り組みに関する確認・必要に応じ委員会で分担作業。</p> <p>・2025 年 ALSIN 会議への出席に向け準備を進める。</p>	
<p>食品機能性研究会・AI 栄養・機能性研究部会</p>					
<p>AI ダイアトロフィ研究部門分科会</p>	<p>数千分子種よりなる食品摂取によるヒトの代謝状態を最新のコンピュータ技術と計算科学を活用し、高速で安価に食の機能性・安全性を予測する AI システムを構築する。</p>	<p>・代謝モデルの領域拡大</p> <p>・機能伝達経路のイジングモデル</p> <p>・AI 教育</p>	<p>➤ 共同研究講座第 II 期</p> <p>1) 第 2 回勉強会 (1 月 14 日)</p> <p>本講座の初歩的な勉強会という位置づけで、下記セミナーを開催。“AI ダイアトロフィ研究部門～AI 基礎, ChatGPT, AlphaFold～” 本セミナーを録画し、ILSI Japan メンバーから希望者を募って、視聴可能とする。</p> <p>2) 第 3 回勉強会 (3 月 18 日)</p>	<p>➤ 第 II 期 2 年目の契約、支払いを推進。</p>	<p>東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe: New Industry Creation Hatchery Center, NICHe) 東北大学大学院農学研究科</p>

			「① 化学反応経路のイジングモデル化論文、② PetriNet、③Flux Balance Analysis との関係」 上記3項目について、論文を引用しながら紹介。		
情報委員会・編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査・研究活動とその成果の発表 ・ 科学情報の普及 ・ 国内外の関連機関との交流・連携 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動報告配信 (年4回) 2. 機関誌「イルシー」の発行 (年4回) 3. 種々出版物発刊のコーディネーター 4. ホームページ改定 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024年11,12月分配信(1月)。 ・ 従来の隔月配信(年6回)を2025年より3か月ごとの配信(年4回)に変更した。 2. 「イルシー」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 161号：発行、ホームページ掲載、お知らせメール配信(2/13) ・ 162号：編集中(2025年5月発行予定) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 部会活動報告の配信(1月、4月、7月、10月) 2. 機関誌「イルシー」の発行(2月、5月、8月、11月) 	

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第1回理事会開催 令和7年通常総会審議事項</p> <p>1) 「2024年事業活動報告及び決算報告書案」承認の件 山口事務局長が各研究会、研究部会ごとに事業活動内容の報告をし、続けて俵積田次長が決算の概要を資料に基づき説明した。守田監事より、2024年決算に関して監査の結果、決算が妥当であると報告があった。</p> <p>2) 「2025年事業活動報告及び収支予算書案」承認の件 事務局長が各研究会、研究部会ごとに今年度の事業活動の計画内容を報告した。木村事務局員から、戦略的イノベーション創造プログラム(略称SIP)のプロジェクトの一つであるデジタル同居サービスの開発に参加するとの説明と、墨田区テイクテン教室の2025年度事業受託内容の説明、東急エージェンシーとの協力の可能性についてテイクテン普及のための方策として現在進行中であると説明した。俵積田次長が収支予算のポイントと概要を説明した。</p>
-----	---

	<p>審議事項 1)及び 2)については承認された。</p> <p>3)新任理事の承認 理事長から推薦された日清食品ホールディングス（株）の常務執行役員の田中充様が候補として選出され、異議なく承認された。</p> <p>4)東南アジア栄養課題研究会の発足 取出席事より東南アジアに興味を有する会員を対象とした部会を新たに立ち上げる旨説明があり、異議なく承認された。</p>
<p>総会</p>	<p>2月20日（木）午前10時より江東区森下文化センター内会議室において開催された。</p> <p>令和7年通常総会審議事項及び報告事項 正会員総数46名のうち総会出席数19名、書面表決26名であった。 議長が正会員より1名選任され、以下議事を進めた。</p> <p>1. 審議事項 第1号議案 「2024年度事業活動報告及び決算報告案」が承認された。 第2号議案 「2025年度事業活動計画及び収支予算案」が承認された。</p> <p>2. 報告事項 以下事務局長からの報告である。</p> <p>1) 新任役員の紹介 資料に基づき山口事務局長が昨年の年次総会以降の新任理事の紹介及び監事1名の退任とそれに伴う後任を選任中との説明を行った。</p> <p>2) 本部動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本年8月パリで開催されるICN2025（International Congress of Nutrition）にILSI Federationとして展示会場にブースを設営し会議の中で6つのセッションを提案する予定である。 ● ILSIの新しい定期刊行物として持続可能性に焦点を置いた「Global Perspectives on Nutrition」が創刊された。 ● 2025年の本部総会が本年夏頃、Web形式にて開催される。
<p>事務局</p>	<p>味の素(株)より出向の山口隆司氏が本年3月末に出向元を退職するため、後任の事務局長としてキッコーマン（株）から出向中の杉本勝俊氏が選任された。但し山口隆司氏はイルシー誌編集及び国際協力委員会業務、本部との会議参加サポートなどを引続き行う。</p>